

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 39

やすらぎの水と脅威の水

徳島県 徳島市長

はら ひでき
原 秀樹



徳島市は、徳島県の東部に位置し、市の北部を流れる四国一の大河「吉野川」が造った沖積平野の三角州に発達した都市です。東は紀伊水道を臨み、西は四国山地が連なり、南部は山々の緑を背にした自然豊かなところでもあります。中心市街地は、徳島の象徴ともいべき眉山、城山が存在し、新町川、助任川が環状に流れており、「水が生きているまち」として、他都市にない個性的な景観を形成しております。また、郊外でも、中小の河川が網状に流れるなど、市内にはあわせて138もの河川があり、全国でも水に恵まれた地域であります。

これらの河川は、ゆったりとした流れの中で、四季折々の風景とともに、市民にやすらぎと憩いを与えてくれる「水」であります。なかでも、本市には、藩政時代から蜂須賀公御用達の水として知られる錦竜水（きんりょうすい）や瑞巖寺の境内に湧く鳳翔水（ほうしょうすい）のほか、蔵清水、春日水など眉山の麓に湧き出る名水が多数あり、今も地域の人達によって大切に保存されております。これらの名水でご飯を炊くと美味しく、コーヒーをたてるとまろやかとの評判で、地元の人々のみならず遠方からも水を汲みに来るなど、多くの人に親しまれ利用されております。

こうした河川も、ひとたび台風の襲来や豪雨ともなると、様相が一変し、市民に脅威を与え、生活を脅かす「水」になります。「四国三郎」と呼ばれる吉野川は、古くから暴れ川として知られ、流域の人々は、洪水との戦いを繰り返してきました。平成16年の台風23号による水害では、2人の尊い命が奪われ、家屋をはじめ、農作物、道路、ライフラインなど広範囲にわたり甚大な被害が発生しました。

このように、私たちの周りには多くの形態をした「水」がありますが、洪水などの脅威を与える水から市民生活を守るには周到な準備と対策が必要です。私は、市政推進の8つの基本理念の一つに、「守り抜く責任」を掲げ、災害から市民の生命や財産を守る防災対策の充実強化を図ることを目指しております。市民の皆さんやNPO等の参加協力を得て、災害時における情報伝達、自主防災組織の整備等ソフト面の整備を図る一方で、河川改修や浸水対策などハード面の整備についても国や県の関係機関と協力・連携を図りながら取り組んでおります。

今後とも、市民生活の中に、やすらぎの水を一つでも多く保全し創造するとともに、誰もが安心して暮らせる安全なまちづくりに努めてまいります。



錦竜水



鳳翔水



16年台風23号台風被害状況